

留学先：フィンドレー大学

氏名：本田 涼哉（留学時：教育地域科学部 学校教育課程 4年）

留学期間：2017年8月～2018年5月（8ヶ月）



| | |
|----------------------------|--|
| 交換留学を希望した動機 | 英語が堪能で、異国の文化に精通した英語教師を目指すため、交換留学を希望しました。留学以前から、英語を通じて海外の大学で勉強し英語力だけでなく様々な学問を学んで知識を深めたい、また、現地の人々のコミュニティーに足を踏み入れて、教科書には載っていないような異文化体験をしてみたいという目標を達成するために、交換留学という選択をしました。 |
| 留学先を決めた経緯 | 私が留学したアメリカのフィンドレー大学は、過去、私の所属する英語教育サブコースから、多くの先輩方が留学された、伝統のある留学先であり、フィンドレー大学で留学された先輩方の流暢に英語を話す姿や自信をもって経験を話す姿を見て、憧れを抱き、フィンドレー大学に留学したいという思いを持ちました。また、フィンドレー大学は、教育分野に非常に力を入れている大学で、英語教員を目指す身として、英語を現地で教える・教えないに関わらず、アメリカの教育や多文化教育といった、日本の大学では学べないことを学べる機会がたくさんあるのではないかと思います、そのような魅力にひかれ、フィンドレー大学での留学を決意しました。それに加え、フィンドレー大学は小さな大学である分、人間関係を密に築くことができるという点も、自らの目標を達成するために最適だという点で、大きな決断の理由の一つでした。 |
| 留学先の大学について (特徴や紹介したい特色) | フィンドレー大学は五大湖の下にあるオハイオ州の北西部に位置するフィンドレー市にある私立大学です。世界 35 か国から約 4200 人の 学生が集まり、約 500 人の留学生が在籍しています。スクールカラー は黒とオレンジで、かつてフィンドレー市が石油と天然ガスの産出で 栄えたことから、学生たちは自分のことを「Oilers」と呼び、「Derrick(石油採掘に使われる重機)」という名のマスコットキャラクターもいます。 獣医学や核医学、薬学部や乗馬のコースが有名な大学で、他にも 100 近くの文化系サークルや、24 の運動部もあります。1000 人以上の学生がキャンパス内の寮またはシェアハウスで暮らし、食べ放題のカフェテリアは いつも多くの学生でにぎわっています。学生数が多くない分、教員との距離や学生同士の距離が近く、学内で多くの学生とのつながりを作ることができる点はフ |

| | |
|-----------------------|--|
| | <p>インドレー大学の特徴であると思います。また、留学生に対してのサポートも手厚く、留学生に向けた現地の学生との交流イベントやプログラムも数多く企画されており、現地との学生の交流の機会がたくさん用意されています。</p> |
| <p>留学先で履修した科目や学習等</p> | <p><u>秋学期 (合計 14 単位取得 : 14 credit hours in total)</u></p> <p><u>識字教育 (EDUC219_01) Phonics/Foundation of Literacy</u></p> <p>この授業では、現地の小学生に英語を第一言語として教える教授法を主に学びます。</p> <p><u>スペイン語 I (SPAN120_06) Elementary Spanish I</u></p> <p>スペイン語の初級クラスで、スペイン語を学び始める人はこの授業をとることになります。この授業では、スペイン語のあいさつや数の数え方、日常会話で使う表現などを、教科書は用いずに学びます。(先生によって方法は異なります。)</p> <p><u>リーディング (ENG145_01) College and Professional Reading</u></p> <p>この授業では、自分が他の授業で使っている教科書を教室に持ち込み、教科書を効果的に読む方法などを学びます。この科目は必修科目になります。</p> <p><u>ライティング (ENIN450_01) Writing Review for Non-Native Speakers I</u></p> <p>ライティングの授業は年間を通じて必修科目になります。この授業では、主にエッセイの書き方や文献の引用の仕方を学びます。</p> <p><u>日本文化交流 (JAPN240_01) Experience in Japanese</u></p> <p>日本語学科の学生と一緒に授業を取り、お互いの文化について学びます。この授業は必修科目です。</p> <p><u>学部入門セミナー (ENIN350_01) English For Specific Purpose</u></p> <p>留学生向けの入門セミナーです。留学生同士で交流を図ることが出来ます。</p> <p><u>小学生メンターの授業 (ENG350_03) English For Specific Purpose (Children Mentoring Program)</u></p> <p>小学校を学期中に 5 回訪問し、子どもたちとの交流を図ります。日本の遊びを紹介する機会もあります。</p> <p><u>春学期 (合計 16 単位取得 : 16 credit hours in total)</u></p> <p><u>民俗学 (EDUC151_01) Ethnicity</u></p> <p>異文化について学ぶ機会が多くあります。宗教や民族衣装、少数派文化についても学ぶことが出来ます。</p> <p><u>ライティング (ENIN451_01) Writing Review for Non-Native Speakers II</u></p> <p>春学期と同じく、エッセイの書き方を続けて学びます。</p> |

| | |
|-------------------------------------|--|
| | <p><u>マーケティング (MRKT326 03) Principles of Marketing</u> 企業のマーケティング理論や方法を学びます。アメリカの企業の特徴や企業の仕組みを、ディスカッションなどを通じて学びます。</p> <p><u>クラブハウス (EDUC423 01) Assessment/Diagnostic of Reading Difficulties a.k.a The Clubhouse Class</u> 小学生に実際に英語を教えることで教育経験を積むとともに、リーディングの評価について学びます。</p> <p><u>スペイン語II (SPAN121 01) Elementary Spanish II</u> 秋学期に引き続き、スペイン語の語彙や文法を、教科書を通じて学びます。</p> |
| <p>あなたの留学先へ交換留学を考える福井大学生へのメッセージ</p> | <p>留学するまでに、多くの準備期間を経てスタートさせました。3年次の主免教育実習が終わると同時に、TOEFL の勉強と大学の情報集めをスタートさせました。私は TOEFL iBT のスコアで交換留学の条件を満たすことが出来ました。留学前は、とにかく語彙とリスニングが苦手で、単語帳や問題集、英字新聞などを使って語彙を増やしたり、問題集の CD や TED Talk という英語プレゼンテーションの動画を見てリスニングを鍛えたりと、その2つを重点的に勉強していました。</p> <p>フィンドレー大学での留学は、他の大学への留学と比べて、主に3つの点において優れていると思います。</p> <p>1つ目に、コミュニティーの小ささという点が挙げられます。フィンドレー大学は、一般的なアメリカの大学の規模に比べて、比較的小さい規模の大学です。学生の数も福井大学との圧倒的な差はありません。キャンパスの大きさも小さく、教室などがある建物は、一か所に集まっているため、非常にコンパクトなキャンパスと言えます。そのため、学生同士の交流が必然的に発生します。例えば、共有スペースで勉強しているところで勉強しているところに、偶然友達がやってきて、一緒に勉強するということがよくありました。そのように、友達と交流を重ね、お互いのことをよく知るチャンスがたくさんあり、密に人間関係を築くことができます。そのような点は、フィンドレー大学の規模の小ささ故の大きな長所だと思います。</p> <p>2つ目に、フィンドレーというコミュニティーには国際的な多様性があるという点です。フィンドレー大学及びフィンドレー市は、異文化に対して非常に寛容なコミュニティーだと思います。日本人やサウジアラビア人、中国、ベトナム、バングラディッシュ、エジプト、スペイン、メキシコ、ナイジェリアといった国々から学生が大学に集まり、日本に関して言えば、フィンドレーに住んでいる日本人も多く、日本</p> |

人が多く通う小学校があります。さらに、フィンドレー大学の **Mazza Museum** という施設は、月に一度、異文化交流の機会ができるイベントをフィンドレー市内の子どもに向けて開催しており、異文化を広める、もしくは体験するといった機械がたくさんあります。フィンドレーは周りを見るとトウモロコシ畑が広がっているような田舎といっても過言ではない土地ですが、多様性の富んだコミュニティーであると思います。

3つ目に、目標実現の機会がたくさんあるという点です。この点はフィンドレー大学に限ったことではないかもしれませんが、自分を成長させる機会や、やりたいと思っていることを実現できる機会が多くあるという点は非常に魅力的でした。フィンドレー大学は、学生を中心としたプログラムがたくさんあり、**Oiler Success Center** といったオフィスがあるぐらい、学生へのバックアップが手厚い大学だと思います。例えば、日本文化を広めるために学校を訪問したい場合は、大学が学校で働いてらっしゃる先生方と連絡を取ってくださったり、サークルなどに参加したい場合は、申し込みの連絡をすれば、留学生でも受け入れてくれたりと、とにかく外部からの訪問などに対する柔軟性が非常に高いと思います。自分の行動次第で、自分のやりたいことを実現のしやすさは日本にいたときに比べて高かったように思います。

このような点においてフィンドレー大学での留学は非常に魅力的だと思います。自らの行動力や目標を軸に、大学での手厚いサポートをバックアップとして積極的に自分のやりたいことを貫く姿勢を忘れなければ、必ず充実した毎日を過ごすことができると思います。

【交換留学の成果について】

交換留学を通じて、留学以前に比べて格段に英語力を伸ばすことが出来ました。交換留学の一番大きな目標としていた英語力の向上を達成できました。まだ英検や TOEIC などの英語資格の試験は帰国後現在では受験していないので、どのくらい英語力が伸びたのかは、現在では正確には分かりませんが、これから試験を受けていきたいと思います。また、さらなる英語学習に努め、食欲に英語力の向上を図っていきたいと思います。

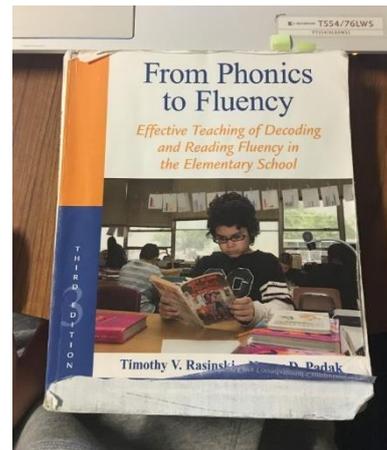
私は留学前に、「現地の人々のコミュニティーに飛び込み、人間関係を構築する。」という目標を掲げ、留学期間中もそのようなことを意識して、積極的に現地の学生と交流を図るよう努めました。そのような点において、私の目標は達成できたのではないかなと思います。現地の人々、それも、日本の文化に精通していない学生との交流を図るため、大きな決断でありましたが、大学の陸上部に所属し、陸上競技をすることを秋学期の中盤に決断し、**Student Athlete** として陸上部に加入することが出来ました。最初は自身の英語力が足りなかったこともあり、なかなか友人を作ることが出来ませんでした。最終的には、彼らと過ごした時間はかけがえのないものになりました。授業

が終わるとほぼ毎日陸上競技の練習に向かい、苦しい練習をともに乗り越え、一緒に学食やレストランで過ごした生活は留学生活というよりも、ほぼ現地の学生と変わらない生活だったと思います。時には、真剣に自分のことを陸上部の友人と語り合ったりしました。そのおかげか、教科書に載っていないような学生の間にある文化や日本の文化との共通点や違いといったことをたくさん知ることが出来ました。日本と比べた陸上競技の大会の様子の違いは好例だと思いますし、陸上競技を現地でしていた私でしか知りえないものだと思います。そのような生活を過ごして得た友人の数は期待を大きく上回るものになりました。また、部活を通じて学んだこととして、アメリカという国のスポーツに対する取り組む姿勢とその価値観の違いでした。少なくとも私の大学にいたチームでは、陸上競技を「楽しむもの」として捉え、「自分を追い込み、自分を鍛え上げる」という考えを見ることはできませんでした。例えば、私がいた陸上部では、チームメイト同士の交流を図るため、1月の初めにドッジボールをしてみんなで汗を流しましたが、日本の部活ではそのようなことはあまりしないと思います。その時間を練習に充てなかった分、確かに時間の無駄だという意見の指摘をいただいてもおかしくないと思いますが、結果私はそのような活動を通じてチームメイトと絆を深め、人間関係の輪を広げることが出来ました。それを考えると、それが本来あるべきスポーツの形であり、価値観なのではないかと思います。どの考えにも一つの正解はありませんが、スポーツに対する新たな見方・視点を得ることが出来ました。将来英語教員になってこのような考え方があることを教師として教えていきたいと思います。さらに、驚きだったのが、フィンドレー大学という小さい大学にも関わらず、大学には、地元のレストランや会社のスポンサーが就いているという点です。これはフィンドレー大学の陸上部に限ったことではなく、アメリカのカレッジスポーツ一般に当てはまることであると思います。スポーツを一つのビジネスチャンスと捉え、マーケティング戦略のアンテナを広げている点は日本との非常に大きな違いだと思います。



さらに、部活をしていて、自分の輪が広がっていく中で、異文化理解について考えが深まったと思います。度々、チームメイトから日本について質問されることがありました。多くの友達は、日本語学科には所属しておらず、日本文化への興味関心が高いわけではありません。それにも関わらず、日本のことについて質問してきたのは、私が日本人であり、陸上部に所属していたからだと思います。そこに、現地の学生のコミュニティーに飛び込み意義があると思います。異文化について興味のない学生に、興味を持ってもらうということも異文化理解において重要なステップなのではないかと思いました。(この意見については3月の月例報告書でも詳しく述べてあります。)

また、部活だけでなく、学業にも当然ですが力を注ぎました。特に、秋学期と春学期の両方の学期で受講した識字教育の授業に力を入れて取り組みました。識字教育の授業を受けて、第一言語としての英語の難しさを学びました。特に英語の読み書きを教えるのは簡単ではなく、かなり大変だと思いました。英語の読み方には例外が多く、それらは、日本人が漢字を覚えるように、暗記しなければならないものも多いという事実には驚きました。また、その識字教育は日本の英語教育にも応用できるものがたくさんありました。英語の一つの文字の発音の仕方や韻を踏みながらの言葉遊びは、特に小学校英語教育に効果的だと思いました。



ボロボロになった識字教育の授業で使った教科書

アメリカで過ごした約 8 か月の生活を振り返ると、本当にあつという間であったと思いますが、得るものがたくさんあり、たくさんの人と出会うことが出来ました。留学で、もちろん英語力を伸ばすために、行動するのは大切だと思います。それと同時に、人とコミュニケーションを取り、たくさんの人と会うことも大切だと思い、友人たちとのコミュニケーションを積極的に行いました。その結果、自分が他人と似ている点、他人と異なる点や自分とは異なる価値観をたくさん発見することが出来ました。学問的な知識や英語力だけではなく、人とのつながりや価値観の違いを発見できたということも大きな交換留学で得た収穫だと思います。

最後に、この留学を支えてくださった福井大学国際課の方々、フィンドレー大学の方々、そして留学に送り出してくれた両親に感謝し、今後も英語教員を目指して、英語を磨き、自分を高める努力をしていきたいと思っています。



異文化理解についてのカンファレンス



クラブハウスでの授業。
ここでは英語の大文字と小文字
について教えています。

フィンドレー大学で出会った友人たちや先生方



【Findlay to Fukui and Back】

昨年度から、福井大学とフィンドレー大学を結ぶ短期留学プログラムがスタートしました。約3週間弱のプログラムで、主に教育学部英語教育サブコースとフィンドレー大学教育学部との間での交流がスタートしました。2018年5月現在、2人のフィンドレー大学教育学部からやってきます。フィンドレー大学に交換留学生としてお世話になった分、福井大学とフィンドレー大学のさらなる友好関係を築いていけるように努めてまいりたいと思います。

